

2024年度第5回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ イルミネーションジャンプステークス

イルミネーション (Illumination) は、「照明」「電飾」を意味する英語。近年ではクリスマスを彩る装飾として、全国各地でクリスマスツリーや街路樹などに電飾が施される。

○ 葉牡丹賞

葉牡丹 (はぼたん) は、ヨーロッパ原産のアブラナ科の越年草。キャベツを観賞用に品種改良したものであり、冬になると中心の葉が白・黄・紫などに色付く。花言葉は「利益」「祝福」。

○ 鹿島特別

鹿島 (かしま) は、茨城県の南東部、太平洋沿岸の地域。名は常陸国の一宮、鹿島神宮に由来する。同神宮は茨城県鹿嶋市にある神社で東国三社のひとつ。社殿は重要文化財となっている。また、プロサッカークラブの鹿島アントラーズのホームタウンとしても有名。

○ スポーツニッポン賞ステイヤーズステークス (G II)

本競走は、1967年に創設された重賞競走。平地競走の中では最長の3600mで実施される。1997年に負担重量がハンデキャップから別定に変更された。

ステイヤー (Stayer) は、「耐える者」を意味する英語。その名が示すとおり、人馬ともに長丁場を耐え抜く持久力が求められる。

スポーツニッポンは、スポーツニッポン新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 南総ステークス

南総 (なんそう) は、旧国名である上総の別称。現在の千葉県中部一帯を指し、「南総里見八犬伝」のモデルとなった里見氏の城下町である館山市などを含む。

○ 市川市市制施行90周年記念 市川ステークス

本競走は、市川市市制施行90周年を記念して実施される。

市川 (いちかわ) は、千葉県北西部の市。梨の生産や海苔の養殖が盛ん。また、江戸川を挟んで東京都と隣接し、都心へのアクセスに優れていることから、衛星都市として発展している。

○ ラピスラズリステークス（L）

ラピスラズリ（Lapis Lazuli）は、藍青色を呈した鉱物。古代から飾り石として用いられ、12月の誕生石の1種としても知られている。主な産出地はアフガニスタンで、「瑠璃」「ラズライト」とも呼ばれる。

<第3日>

○ 黒松賞

黒松（くろまつ）は、マツ科の常緑高木。樹皮は灰黒色で、亀甲状の裂け目がある。葉は2枚ずつ対に付き、針状で硬い。潮風に強いことから、防風林として用いられることが多い。

○ アクアラインステークス

アクアライン（Aqualine）は、海上道路と海底トンネルからなる全長約15.1kmの自動車専用道路で、千葉県木更津市と神奈川県川崎市を結ぶ。1989年に着工し、1997年に開通した。海上パーキングエリア「海ほたる」では東京湾の360度オーシャンビューやショッピングを楽しむことができる。

○ 常総ステークス

常総（じょうそう）は、茨城県南西部の市。2006年に水海道（みつかいどう）市が結城郡石下町を編入し、改称して現在に至る。江戸時代以降、鬼怒川の河川水運によって周辺地域の中核都市として発展した。また、旧国名の常陸国と下総国の併称としても用いられる。

<第4日>

○ チバテレ杯

チバテレは、千葉市中央区に本社を置く千葉テレビの愛称。1971年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 師走ステークス（L）

師走（しわす）は、陰暦12月の異称。季語や時候の挨拶などに用いられる。

○ カペラステークス（GⅢ）

本競走は、秋季競馬における短距離ダート競走の充実を図る観点から、2008年に創設された重賞競走。

カペラ (Capella) は、ぎょしゃ座のアルファ星。ラテン語で「牝の仔ヤギ」を意味する。カペラ・アルデバラン・リゲル・シリウス・プロキオン・ポルックスの6つの恒星で冬のダイヤモンドを構成する。

<第5日>

○ ひいらぎ賞

ひいらぎは、モクセイ科の常緑高木。葉は対生し、長楕円形で鋭い鋸歯がある。初冬になると、葉腋に白色の芳香がある花をつけ、核果は紫黒色に熟する。花言葉は「先見の明」「歓迎」。

○ 霞ヶ浦特別

霞ヶ浦（かすみがうら）は、茨城県南東部の湖。鹿島灘寄りの北浦に対し、西浦とも呼ばれる。面積は220km²で、琵琶湖に次いで国内第2位の広さを誇る。湖の大部分が水郷筑波国立公園に含まれている。

○ ターコイズステークス（GⅢ）

本競走は、古馬牝馬路線のさらなる充実を目的として2015年に創設された重賞競走。2017年からGⅢ競走に格付けされている。

ターコイズ (Turquoise) は、12月の誕生石の1種。別名トルコ石。トルコでは産出されないが、トルコを通じてヨーロッパに輸入されたため、その名がついたと言われている。色は碧青または淡緑で、その独特な色合いから「ターコイズブルー」とも呼ばれる。

<第6日>

○ 香取特別

香取（かとり）は、千葉県北東部にある市。2006年に佐原市・小見川町・山田町・栗源町の1市3町が合併して誕生した。市内に鎮座する香取神宮は、中世以降は下総国の一宮、明治以後は官幣大社に列し、昭和に勅祭社に治定された。東国三社のひとつに数えられる。

○ 北総ステークス

北総（ほくそう）は、旧国名である下総の別称。現在の千葉県北部および茨城県南部の地域を指す。住宅地として開発が進む一方、サツマイモや大根などの近郊農業も盛ん。

○ ディセンバーステークス（L）

ディセンバー（December）は、「12月」を意味する英語。ラテン語で「10」を意味する「Decem」が語源とされ、古代ローマで採用されていた3月起算の暦において10番目の月という意。

<第7日>

○ ノエル賞

ノエル（Noel）は、クリスマスを意味するフランス語。日本では英語の「クリスマス」が使われることが多いが、薪の形をしたクリスマスケーキの「ブッシュ・ド・ノエル」やクリスマスローズの事を指す「ローズ・ド・ノエル」など、「ノエル」もクリスマスを表現する言葉として用いられる。

○ 農林水産省賞典中山大障害（J・G I）

本競走は、1934年に創設された障害重賞競走。当時中山競馬倶楽部の理事長であった肥田金一郎氏が、東京競馬場の『東京優駿（日本ダービー）』に匹敵する中山競馬場の名物競走とする目的で設けた。競走距離は幾度かの変更を経て、1972年秋に創設時の4100mとなった。また、1999年に障害競走の最高峰であるJ・G Iに格付けされ、負担重量も別定から定量に変更された。なお、1998年までは春・秋の年2回実施されていたが、1999年から春は『中山グランドジャンプ』として実施されている。

○ グレイトフルステークス

グレイトフル（Grateful）は、「感謝する」「ありがたく思う」を意味する英語。

○ クリスマスカップ

クリスマス（Christmas）は、キリスト降誕祭のこと。キリスト教圏では主に家族と過ごし、プレゼントを交換する風習がある。日本では明治時代以降に年中行事として定着したと言われている。

<第8日>

○ 冬至特別

冬至（とうじ）は、二十四節気のひとつで、太陽が冬至点（黄経 270 度）に到達する時刻および日のこと。毎年 12 月 22 日前後で北半球においては日照時間が最も短くなる。日本では、ゆず湯をはじめ様々な風習が存在する。

○ グッドラックハンデキャップ

グッドラック（Good Luck）は、「幸運」を意味する英語。「幸運を祈る」「上手くいくことを願う」という意味で、相手を励ます言葉としても用いられる。

○ JRAウルトラプレミアム オルフェーヴルカップ

本競走は、JRA70 周年「メモリアルヒーロー」ファン投票において、『有馬記念』の歴代優勝馬の中から選ばれたオルフェーヴル号の名を冠した競走。

オルフェーヴル号は、2011 年（第 56 回）・2013 年（第 58 回）の『有馬記念』優勝馬。2011 年は史上 7 頭目のクラシック三冠を達成し、古馬との初対決となった同レースも 6 連勝で制した。引退レースとなった 2013 年は、8 馬身差の完勝で G I 6 勝目を挙げた。その他にも、『凱旋門賞（仏 G 1）』において 2 年連続 2 着と好走するなど、輝かしい実績を残した。これらの功績から、2011 年から 3 年連続で JRA 賞を受賞し、2011 年に JRA 賞年度代表馬に、2015 年には顕彰馬にも選定された。

なお、本競走は、払戻額を大幅に増加させる「JRA ウルトラプレミアム」の対象競走。

○ 有馬記念（G I）（第 69 回グランプリ）

本競走は、1956 年に創設された『中山グランプリ』を前身とする重賞競走。当時の日本中央競馬会理事長であった有馬頼寧氏が、中山競馬場新スタンド竣工を機に『東京優駿（日本ダービー）』に匹敵する大レースを」とする目的で創設した。しかし、第 1 回の実施から間もない翌 1957 年 1 月 9 日に有馬氏が急逝したため、同氏の功績を称えて『有馬記念』と改称された。以来、年末の風物詩として親しまれ、幾多の名馬が名勝負を繰り広げてきた。

なお、本競走は『宝塚記念』と同様、ファン投票によって出走馬が選定される。

○ 2024 フェアウェルステークス

フェアウェル（Farewell）は、「別れ」を意味する英語。「ごきげんよう」「さようなら」という意味で、別れ際の挨拶としても用いられる。

<第9日>

○ ベストウィッシュカップ

ベストウィッシュ (Best Wishes) は、「幸福あれ」を意味する英語。また、手紙の文末では結びの句としても用いられる。

○ JRAウルトラプレミアム コントレイルカップ

本競走は、JRA70周年「メモリアルヒーロー」ファン投票において、『ホープフルステークス』の歴代優勝馬の中から選ばれたコントレイル号の名を冠した競走。

コントレイル号は、2019年(第36回)の『ホープフルステークス』優勝馬。同レースでは、2戦2勝で駒を進めてきた馬が人気を集める中、1番人気に支持され、無傷の3連勝でG I勝利を達成した。その後、『皐月賞』『東京優駿(日本ダービー)』『菊花賞』も勝利し、父ディーピンパクト号以来15年ぶり史上3頭目の無敗のクラシック三冠馬となった。生涯成績はG I 5勝を含む11戦8勝という輝かしい実績を残した。これらの功績から、2019年から3年連続でJRA賞を受賞し、2024年には顕彰馬にも選定された。

なお、本競走は、払戻額を大幅に増加させる「JRAウルトラプレミアム」の対象競走。

○ ホープフルステークス (G I)

本競走は、『ラジオ NIKKEI 杯 2歳ステークス』を前身とする重賞競走。2014年にG IIに、2017年にG Iに格上げされ、2歳中距離路線の頂点を決める競走として位置づけられている。『皐月賞』と同じ舞台で実施されることから、来春のクラシック路線を占う一戦としても注目される。

ホープフル (Hopeful) は、「希望に満ちた」「望みを持つ」を意味する英語。

○ 2024ファイナルステークス

ファイナル (Final) は、「最終の」「最後の勝負」を意味する英語。本競走は、今年度の中央競馬を締め括る競走として実施される。